



パリの最高級住宅街である「アヴェニュー・ガブリエル」(Avenue Gabriel)。その優雅な雰囲気と溶け込んだホテルがラレゼルヴパリ「La Réserve Paris」である。オスマン様式の建物のエントランスは、ホテルというより高級アパートマンに招かれたような雰囲気を醸し出している



ラレゼルヴパリ「La Réserve Paris」の最大の見所は「Library Lounge」であろう。背表紙の美しい古典書が整然と並ぶライブラリーに思わず感嘆する。オーナーはボルドー・サンテステフの雄、コス・デストゥルネル「Cos d'Estournel」を傘下に置くワイン界の重鎮ミシェル・レビエ氏である



元々は、ピエール・カルダン氏所有の邸宅で、著名インテリアデザイナーのジャック・ガルシアが端正なラグジュアリーホテルに改装した



ドアマンに導かれ館内に入ると女性のアテンダントに引き継がれ、このロビーラウンジに案内される



逆方向から望むライブラリーラウンジ。優雅な時が流れる読書のティータイムはパリのホテルの中でも秀逸なものだ



隣接して華麗なサロン「ラ・パゴド・ド・コス」(La Pagode de Cos)がある。ここで頂くアフタヌーンティーは至福の時だ



筆者 小原 康裕
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。
1974年 Munich Re 入社。
2001年投資顧問会社原健設立、
代表取締役 CEO。
JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント
協会常務理事。
SKAL International Tokyo、
Professionnels du Tourisme 会員。
JARC、日本宿泊施設関連連合会
アドバイザーボードメンバー。

www.jhrca.com/worldhotel/?cat42
www.hoterresonline.com
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

La Réserve Paris Hotel and Spa

パリの最高級住宅街である「アヴェニュー・ガブリエル」(Avenue Gabriel)。その優雅な雰囲気と溶け込んだホテルがラレゼルヴパリ「La Réserve Paris」である。オスマン様式の建物の玄関は、ホテルというより高級アパートマンに招かれたような雰囲気を醸し出している。クリヨンのあるコンコルド広場からアメリカ大使館を抜けると直ぐの立地で、セキュリティガードが多く配置されて安堵感を覚える。元々は、ピエール・カルダン氏所有の邸宅で、著名インテリアデザイナーのジャック・ガルシアが端

端正なラグジュアリーホテルに改装した。全40室のうち、26室がスイートというリクスの客室構成で、スタッフのきめ細かいホスピタリティは細部に至るまで行き届いている。

ラレゼルヴは、2016年にオープンしてまもなく「PALACE」称号の認定を受けたホテルであり、LHWにも加盟している。特筆すべきは、オープン直後すぐにミシュラン2ツ星を獲得したレストラン、ル・ガブリエル「Le Gabriel」だ。華麗なデザインレイアウトの店内に、ランプロワジー、ルカ・カルトンで経験を積んだ実力派、ジェローム・バンクテルが腕をふるっている。さらにラレゼルヴのオーナーは、ボルドー・サンテステフの雄、コス・



サロン「ラ・パゴド・ド・コス」 「La Pagode de Cos」は、ボルドー・サンテステフの雄「Cos d'Estournel」のセカンドラベルの名称から取ったものだ



本格的なスイーツを収めた大きな円形のトレー。中国のホテルでよく目にするアフタヌーンティーの円形トレーで、ここにもコスの東洋趣味が反映されている



「Le Bar」のカウンター席とラウンジ



ミシュラン2ツ星を獲得したレストラン、ル・ガブリエル「Le Gabriel」。実力派のエグゼクティブシェフ、ジェローム・パンクテルが腕をふるっている



スパ施設「La Réserve Paris Spa」の深紅のレセプションデスク。正にパリのエスプリを感じさせる大胆な色使いだ



落ち着いた大人の雰囲気を感じられるスイミングプール



気品ある「Premier Room」のベッドルーム。約45㎡の広さの重厚な部屋で、パリのベルエポックを感じさせる雰囲気だ。全40室のうち、26室がスイートというリュクク的な客室構成で、スタッフのきめ細かいホスピタリティは細部に至るまで行き届いている



イタリア・カララ産の大理石を使った品格あるツインシンク



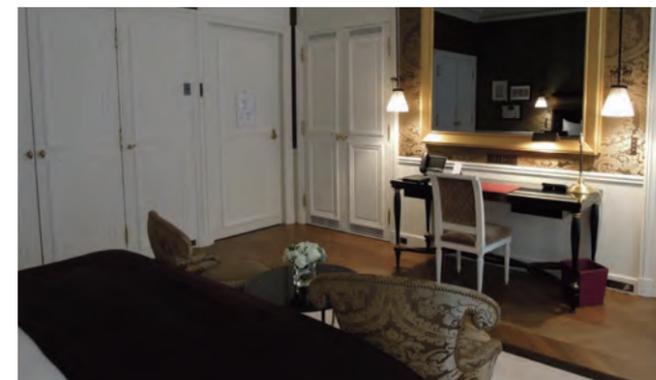
床に貼られた大理石の文様が、バスタブの外側ステンレスに反映されたバスルーム

DESTOULNER「Cos d'Estournel」を傘下に置くワイン界の重鎮ミシェル・レビエ氏である。ゆえに、館内の彼方こちらにコス・DESTOULNERのアイコンである象の置物がさりげなく置かれている。

ラレゼルブの正面エントランスに立つドアマンに導かれ館内に入ると、非常に質の高いアンビアン스에感服する。今回は気品ある「Premier Room」をご紹介したい。約45㎡の広さの重厚な部屋で、パリのベルエポックを感じさせる雰囲気だ。ホテルの最大の見所は「Library Lounge」であろう。背表紙の美しい古典書が整然と並ぶライブラリーに思わず感嘆する。隣接して華麗なサ

ロン「ラ・パゴド・ド・コス」 「La Pagode de Cos」がある。ワイン好きならすぐ分かる、コス・DESTOULNERのセカンドラベルの名称から取ったこだわりも心憎い。スパ施設「La Réserve Paris Spa」は大人の雰囲気、深紅のレセプションデスクは正にパリのエスプリを感じさせる。

ラレゼルブは現在LHWに加盟しており、その卓越したホスピタリティゆえにリピーターの比率は非常に高い。優雅な時が流れる極上のティータイムはパリのホテルの中でも秀逸なものだ。数あるパリの一流ホテルの中でも押さえておきたい本物のホテルと言えよう。



ライティングデスクの正面に掲げられた鏡の大胆なレイアウトが印象的だ



部屋から俯瞰する中庭ガーデンテラス